

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公表番号】特表 2000-516983(P2000-516983A)

【公表日】平成 12 年 12 月 19 日 (2000.12.19)

【出願番号】特願平 10-511654

【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 L 63/00

C 0 8 L 27/12

C 0 9 D 127/12

C 0 9 D 163/00

C 0 9 J 127/12

C 0 9 J 163/00

【F I】

C 0 8 L 63/00 A

C 0 8 L 27/12

C 0 9 D 127/12

C 0 9 D 163/00

C 0 9 J 127/12

C 0 9 J 163/00

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 8 月 2 日 (2004.8.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年8月2日

特許庁長官 小 川 洋 殿



1. 事件の表示

平成10年特許願第511654号

2. 補正をする者

名称 ミネソタ マイニング アンド マニファクチャリング
カンパニー

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル
青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751) 石 田 敬



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正します。

7. 添付書類の目録

請求の範囲

1 通



請求の範囲

1. 硬化可能な組成物であって：

a) 0重量パーセントより多量であり、75重量パーセントまでのエポキシ樹脂と、

b) 該硬化可能なエポキシ樹脂のための有効量の硬化剤と、必要に応じて該硬化剤のための増感剤および促進剤の一方または両方と、

c) 総エポキシフルオロポリマー組成物の重量に対して25から100重量パーセント未満の十分に予備重合された未架橋フルオロポリマーと、

d) 必要に応じて、ポリオレフィンおよびポリアミドの一方または両方を含む硬化可能な組成物。

2. 前記フルオロポリマーがポリ（テトラフルオロエチレン）、ポリ（テトラフルオロエチレン-コ-ヘキサフルオロプロピレン）、ポリ（エチレン-コ-テトラフルオロエチレン）、ポリ（エチレン-コ-テトラフルオロエチレン-コ-ヘキサフルオロプロピレン）、ポリ（フッ化ビニリデン）、ポリ（クロロトリフルオロエチレン）、およびテトラフルオロエチレンとヘキサフルオロプロピレンとフッ化ビニリデンとのターポリマー（THV）からなる群から選択される請求項1記載の組成物。

3. 前記フルオロポリマーが0.01～20モルパーセントの範囲の脱フッ化水素化フルオロポリマーを含有する請求項1または2記載の組成物。

4. 前記硬化剤が光硬化剤および170℃以上の温度において活性化される熱硬化剤からなる群から選択される請求項1乃至3のいずれかに記載の組成物。

5. フルオロポリマー-エポキシ半-IPNを含有する、請求項1～4のいずれか1項記載の組成物の硬化物。

6. 方法IまたはIIのステップを含む、請求項5記載の半-相互貫入ポリマーを製造するための方法：

方法 I：

a) 触媒の熱活性化温度より低い温度において、

1) 硬化可能なエポキシ樹脂と、

2) 該硬化可能なエポキシ樹脂のための、活性化可能温度が170℃以上

である有効量の熱硬化剤と、

3) 十分に予備重合され、未架橋であり、必要に応じて20重量パーセントまでが脱フッ化水素化されたフルオロポリマーと、

4) 必要に応じて、ポリオレフィンおよびポリアミドの少なくとも一方を含む混合物を提供するステップと、

b) 前記エポキシ樹脂の硬化を行うのに十分な時間、温度を該触媒の熱活性化温度より高く上昇させるステップを含む方法；および

方法 I I :

a) 1) 硬化可能なエポキシ樹脂と、

2) 該硬化可能なエポキシ樹脂のための有効量の光開始剤と、

3) 十分に予備重合された未架橋のフルオロポリマーと、

4) 必要に応じて、ポリオレフィンおよびポリアミドの少なくとも一方を含む混合物を提供するステップと、

b) 前記エポキシ樹脂の硬化を行うのに十分な時間、前記混合物をUV放射線に暴露するステップとを含む方法。